

「遺伝子組換え農作物を考えるコンセンサス会議」の「運営委員会の意見」及び関係省庁への要望について

「遺伝子組換え農作物を考えるコンセンサス会議」の  
「運営委員会の意見」及び関係省庁への要望について

「遺伝子組換え農作物を考えるコンセンサス会議」の「市民の考えと提案」については、11月6日に掲載したところですが、この「市民の考えと提案」を踏まえた調査研究等についての「運営委員会の意見」がとりまとめられておりますので、御紹介します。

また、「市民の考えと提案」及び「運営委員会の意見」について、このほど、農林水産省及び厚生省に、STAFF 理事長から文書により要望しましたので、併せて御紹介します。

-----  
1. 運営委員会の意見

平成12年11月8日

(社) 農林水産先端技術産業振興センター

理事長 畑中 孝晴 様

「遺伝子組換え農作物を考えるコンセンサス会議」

運営委員長 若松 征男

「遺伝子組換え農作物を考えるコンセンサス会議」の  
「市民の考えと提案」を踏まえた調査研究等についての意見

去る11月4日に、「遺伝子組換え農作物を考えるコンセンサス会議」の「市民の考えと提案」がとりまとめられ、公表されました。「市民の考えと提案」を踏まえた調査研究等については、運営委員会は次のとおり考えましたので、これを参考として調査研究等をお進め下さるよう、お伝え致します。

記

I 調査研究

1 長期的影響の調査研究

近縁植物との交雑、昆虫・生物への影響、生物の多様性・生態系への影響等、遺伝子組換え農作物が環境に与える影響について、長期的な視点から調査研究を進めること。また、遺伝子組換え農作物を長期にわたり、食品として、もしくは飼料を経由して人間が摂取した場合の安全性について、長期的な視点から調査研究を進めること。（「市民の考えと提案」の3、4関連）

2 有用性・メリットについての調査研究

遺伝子組換え農作物が社会にもたらすメリットについて、技術的観点のみならず、社会科学的な観点を含めて調査研究すること。（「市民の考えと提案」の2 関連）

### 3 情報提供の仕方についての調査研究

遺伝子組換え技術・農作物・食品についての情報提供の仕方そのものについて、何らかの調査研究を進めること。また、関連する学術論文を含め、情報提供のためのデータベースの構築を検討すること。（「市民の考えと提案」の9 関連）

## II その他の事項

### 1 情報提供の強化

遺伝子組換え技術・農作物・食品についての情報提供、特に消費者への情報提供について、メリットとデメリットを含め一方的でない情報を、出来るだけ早い時期から、分かり易く、かつ情報弱者への配慮等をしながら進めること。（「市民の考えと提案」の9 関連）

### 2 社会科学的視点の重視

遺伝子組換え農作物の問題に限らないが、先端的な科学技術の研究・実用化の問題については、自然科学の立場はもとより、社会科学的な視点も重視して考えていくこと。（「市民の考えと提案」の“終わりに” 関連）

### 3 生産者と消費者を視野に入れた行政の推進

遺伝子組換え農作物の問題に限らないが、生産者や消費者の自己決定権を生かせるような仕組み、生産者や消費者と行政との双方向性のある議論の推進等、生産者と消費者をより十分視野に入れた行政の推進に配慮すること。（「市民の考えと提案」の“終わりに” 関連）

### 4 国際関係

飢餓が深刻な地域等における食料増産は、地域の気候風土や経済状況等に見合ったオーダーメイドの対策が必要であり、遺伝子組換え農作物の活用に当たってもこのような点へ配慮すること。（「市民の考えと提案」の8 関連）

---

## 2. 農林水産省・厚生省への文書

平成12年11月15日

〇〇〇〇

〇〇〇〇殿

（社）農林水産先端技術産業振興センター

理事長 畑中 孝晴

「遺伝子組換え農作物を考えるコンセンサス会議」の

「市民の考えと提案」及び運営委員会の意見について

当センターの運営等につきましては、日頃より御指導賜りまして有り難うござ

います。

さて、当センターでは、貴省の助成を受け「遺伝子組換え農作物を考えるコンセンサス会議」を実施して参りましたが、このほど「市民の考えと提案」（別紙1）がとりまとめられ、公表されました。また、この「市民の考えと提案」を踏まえた調査研究等についての運営委員会の意見（別紙2）が提出されました。

当センターでは、これらを踏まえ、早急に調査研究等に着手することとしておりますが、貴省におかれましても、遺伝子組換え農作物等に係わる政策の推進に当たり、御参考にして頂くよう要望致します。

※別紙は省略します。